

絵の島

菅

茶

山

山陽の諸島列して隣を成す

佳境各北人に誇るに堪えたり

一事唯斯の地に及ぶ難し

芙蓉海を隔てて全身も露

【作者】菅 茶山(菅 晋帥(しんすい)(一七四八〜一八二七年)字は礼卿、通称太仲、茶山は号。江戸後期の儒者・漢詩人。菅波氏、つめて菅という。備後神辺(広島県深安郡神辺町福山)の人。父は扶好、通称は樗平農商業を業とした。茶山は寛延元年に生まれた。京都に出て那波魯堂に朱子学を学び、その後郷里に帰り、教育に専念した。家の東北に面する黄葉山の名から塾名を黄葉夕陽村塾と名付ける、また近くに茶臼山があったので自ら茶山と号した。昌平黌の三博士(柴野栗山・尾藤二洲・古賀精里)をはじめ、大阪の中井竹山、安芸の頼春水・杏坪兄弟らとも親しく交わった。詩名最も高く高く東に寛齋あり西に茶山ありといわれた。文化元年扈從して江戸に赴き、帰つて後命ぜられて『福山志』を編し、その後三たび棒を加えられて三十口となり、文政六年(一八一三)には大目付に進み、同十年八十歳の長寿を祝したが、隔膜を患い八月十三日没す。その私塾は大いに栄え、頼山陽は一時その塾頭であった。

【通釈】瀬戸内海の島々は列をなして並んでいる、その佳き眺めは関東の人々に誇れるものだ。だが、たった一つ、この地、江の島に及ばないのは、富士山が海の向こうに、すそ野までくつきりと素晴らしい姿を見せている景色である。